

【豊岡市生活支援体制整備事業】



第4号

とよおか・ささえあい 便り

豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課
生活支援係 発行 ☎23-2573

この便りは、生活支援コーディネーターの活動や地域・企業・団体等の皆さんの地域福祉活動、豊岡市社会福祉協議会の取り組みなど、さまざまな情報を発信するものです。

これまでに発行した便りは、豊岡市社会福祉協議会ホームページにて公開していますので、ぜひご覧ください！

コロナ禍において、令和3年度も地域の活動が難しい状況でした。しかし、そのような中でも、市内の多くのサロンでは、工夫をこらし、身近なつながりを育みながら、サロン活動に取り組んでおられました。

今回は、令和3年度ふれあいいいききサロンを対象に実施したアンケート結果のご報告に合わせて、工夫された内容や活動者の思いなどを紹介いたします。

アンケートへのご協力ありがとうございました！
アンケート対象数 295件
アンケート回収数 291件（回収率 約99%）



ふれあいいいききサロンには「いいこと」たくさん

その1 楽しく、社会参加

ふれあいいいききサロンは、参加者一人ひとりが主役の、みんなでつくるサロンです。楽しみながら行いましょう。サロンで顔を合わせることで、日頃の生活の中でも互いに声をかけ合う、あたたかな交流が生まれます。

その2 閉じこもりの予防

定期的に参加することで、生活の中にメリハリが生まれます。サロンの仲間に出会うため、身だしなどに配慮することも、面倒なようで良い刺激となります。

その3 適度な運動

サロンに出かけるだけでも、家の中で過ごしているのとはずいぶん違います。また、サロンで無理なく体を動かせることより効果的です。

その4 身近なボランティア

小さなことでも、自分のできることが誰かの為になります。参加者の笑顔同士の笑顔につながる身近な地域でのボランティアの機会です。

その5 暮らしやすい地域づくり

何気ない会話から、日頃の心配ごとや見守りが必要な方の存在、地域の中のちょっとした変化や困りごとに気づくことができます。みんなで話し合い、時には専門職のサポートを得ることで、地域のみんが暮らしやすい地域づくりにつながります。

「つながりを絶やさない 地域づくり」と題して、豊岡地域のサロンお世話役さんによる座談会を実施しました。コロナの中、どんなことに気づき、工夫してきたのか！？「広報紙 NIKO(令和4年7月号)」「とよおか社協ちゃんねる」にて、ぜひご覧ください。



とよおか社協ちゃんねる



日高・鶴岡区

豊岡・神美地区

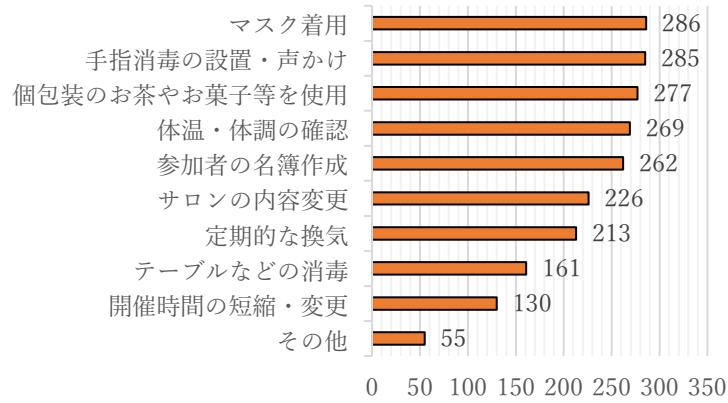
城崎・戸島区

コロナ禍でしたが、たくさんのつながりが生まれています

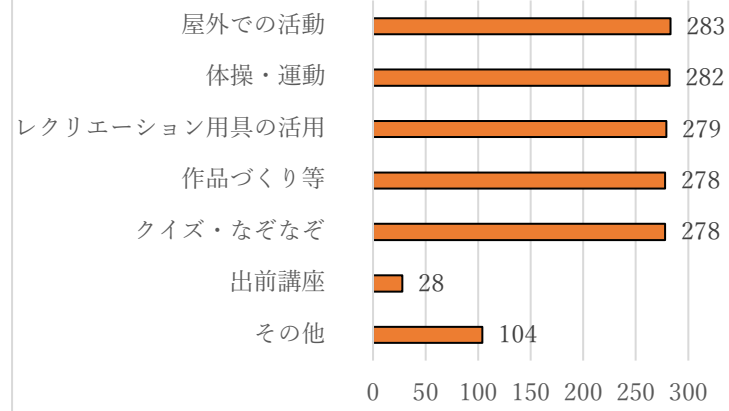


アンケート結果について(まとめ)

サロン開催時の工夫



コロナ禍でも好評・取組みやすかったこと



(サロン内容変更の主な内容)

- ・歌を歌うのは控えた
- ・簡単な体操や屋外での取組みを増やした
- ・レクリエーション用具の活用
- ・お茶やお菓子は持ち帰れるようにした

(その他の主な内容)

- ・パーティションの製作・設置
- ・席と席の距離を広げた
- ・空気清浄機の設置
- ・マスクを忘れてしまった方にマスクを渡す
- ・広い場所での開催(屋外を含む)など

(屋外での活動の主な内容)

- ・寄せ植え・花見、紅葉狩りなど
- ・天気の良い日は屋外会場でサロン
- ・ウォーキング

(作品作りの主な内容)

- ・うちわ、季節の飾りものを手作りする

(その他の主な内容)

- ・昔の懐かしい写真を見ながらおしゃべり
- ・サロン開催の声かけは平等に行うが、参加するのは個人の判断と割り切る
- ・集うことが難しかった分、サロン開催時には笑顔で話をする参加者の姿が見られた
- ・どんな形であれ、顔を合わせて話ができることが一番など

集う以外の取組みについて(一部)



- ・集まれなくても、サロン参加者を訪問したり、生活の中で顔を見てつながりを保った
- ・(サロン参加者に)絵手紙を書いた
- ・毎日のウォーキンググループに声かけを依頼し、行ってもらった
- ・サロン参加者で休耕田にコスモスやひまわりを植えた
- ・昼食会を中止し、お弁当を配布し、顔を見ながら状況を確認した
- ・区の行事の際に、顔を合わせて状況確認を行った
- ・集まれなくても、各自同じ取組みを実施して連帯感をもつ(ラジオ体操、健康ポイントの活用、脳トレクイズ、塗り絵など)
- ・サロンの通信を作成し、配布。配布をする際に見守りを行う
- ・電話や LINE の活用など



コロナ禍のサロン活動で、不安に感じたこと・困っていること(一部)

一番多く寄せられたのは、開催の判断が難しいこと

- ・感染対策を行っても、集まることへの不安があった
 - ・クラスターが起きた際の責任はとれない
 - ・他の活動地区の状況を知りたい
 - ・開催するかどうかの最終判断は主催者であり、判断に悩む
- ・参加者が増えない
- ・サロンを開催する際の、いいネタがないか
 - ・他の地域の方との交流会(意見交換も)できたらいいな

その中でも、「こんな考え方で活動を行った」というコメントの紹介

- ・(開催について)スタッフと話し合い、みんなで決めた
- ・サロンを中止するのも決断だと割り切る
- ・「サロンを中止することで、引きこもり・フレイル・認知症が進むのでは?」と、考えて内容変更・時間短縮を話し合い、細々と続けた。結局、皆が出会って話すことを楽しみにしている
- ・全員を集めようと思うのではなく、来てくれる人だけで楽しめることを一番に考えた
- ・一人暮らしの方の困っていることを尋ねると、食事であり、一品食堂を思いついた配食に合わせて、見守りを行った
- ・コロナ対策にも出来ることには限界がある。可能な限りの対策を行っても、会話中のマスクなど規制が届かないところも出てくる。最終的には、参加者の自己判断にお任せするしかない
- ・無理はしない、小さいことでも、できることをやる



令和3年度のサロン活動は開催・休止の難しい判断を行いながらの実施となりました。しかし、そこには方法や内容の工夫をしたり、サロンは休止しても日常の中で互いに声を掛け合うなど「できることをやろう」と取組みを続けられた方々が多くいらっしゃいました。その一つひとつの取組みは小さいものであったとしても、それらが重なっていくことで、暮らしを豊かにする安心感や地域の連帯感に確かにつながっていたように感じます。

サロンは、「楽しい」だけでなく、何気ない会話の中から、地域の中の小さな変化や困りごとなどに気づくことができる大事な場所でもあります。

今後も、サロン開催の判断や内容について「どうしようかな?」と思われた時、地域の中の気になることなど、お気軽に最寄りの豊岡市社協にお声かけください! 社協職員も皆さまと一緒に考えながら、行動していきます!

